

報道関係者各位

長谷川億名監督による 新潟県・佐渡島が舞台の最新SF映画『コスモ・コルpus』 2026年5月2日(土)～15(金)劇場初公開決定！

KID FRESINO主演の2014年作『イリュミナシオン』も同時期上映！

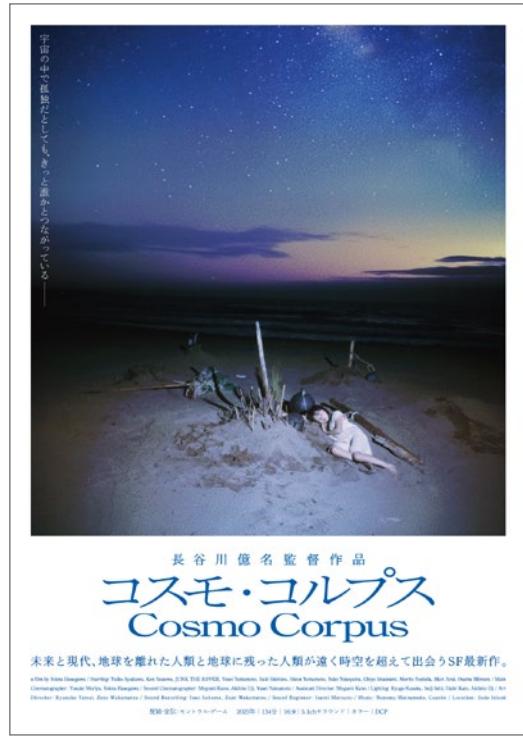
セントラルゲーム | 2026年2月10日 14:00配信

セントラルゲームは、2026年5月2日(土)～15(金)に、長谷川億名(はせがわよくな)監督の最新作となるSF長編映画『コスモ・コルpus』を、シアター・イメージフォーラムにて二週間限定で上映いたします。本作品は、今回が劇場初公開となります。また、同期間にて長谷川監督の2014年作、KID FRESINO氏主演の『イリュミナシオン』の上映も行います。

本作『コスモ・コルpus』は、長谷川監督自身が新潟県・佐渡島(さどがしま)を20回以上訪れ、現地の人々とコミュニケーションをとりながら4年の歳月をかけてインディペンデント(自主製作)にて製作したSF映画です。佐渡島という大自然の環境と、人々とのつながりが生み出した本作品の公開を楽しみにお待ちください。

本作の特設サイトについても公開しておりますので、こちらもお知らせいたします。

映画『コスモ・コルpus』特設サイト
<https://yoknahasegawa.com/cosmocorpus>



映画『コスモ・コルpus』メインビジュアル

映画『コスモ・コルpus』について

○長谷川億名監督が描く『コスモ・コルpus』の世界

『イリュミナシオン』『デュアル・シティ』で近未来的な日本を舞台とするSF映画を作ってきた長谷川監督が企画構想・プロデュース・脚本も担当した最新作『コスモ・コルpus』。「未来と現代、地球を離れた人類と地球に残った人類が時空を超えて出会う」というテーマを「未来篇」「未来縄文篇」「現代篇」の三篇を通して描く、独創的でありながら普遍的な、現代の私たちの心にも響くSF長編です。

○新潟県・佐渡島のオールロケで撮影された、雄大な自然と人々の暮らし

本作は、全編が新潟県・佐渡島のオールロケで撮影されています。佐渡島は離島でありながら東京23区の約1.5倍の面積(約855km²)があり、「能」をはじめとする豊かな歴史文化と、ジオパークといわれる特徴的な自然環境が育まれる土地です。そのような場所からインスピレーションを受け、SF作品が構想・撮影されました。主要なキャストとして佐渡島の住民も数多く参加し、ドキュメンタリーの手法で捉えられた島の生活や雄大な自然もシーンの中に映し出されており、様々な時間や場所の中で移り変わる映像美が特徴です。

○SF映画ならではの、劇中の音響・音楽もポイント

作品内の音響は濱口竜介監督の整音も担当する松野泉氏が手がけており、佐渡島で実際に聞こえる波や風といった音を扱いながら、SFの世界へと昇華させる魅力的な演出になっています。主題歌は、Nozomu Matsumoto + Cuusheの『Cosmo Corpus』。三篇の時代の感情的表現をつなぐ劇中音楽も担当したNozomu Matsumoto氏が音楽を、浮遊感のある音世界を生み出すシンガーソングライターのCuushe氏が歌と歌詞を、映画のために書き下ろした特別な一曲となっています。

あらすじ

遥か未来、人類は新たな資源を求め地球から離れた一族「離派」と、地球にとどまった一族「残派」に分かれていた。高度なテクノロジーにより宇宙空間で繁栄した「離派」に対して、地球内に残った「残派」は、残り少ない資源を使いながら刻一刻とその数を減らしている。地球を失った「離派」も、地球上で仲間を失い続けている「残派」も同様に孤独を抱える中、強いつながりを求める意識はいつしか現代の孤独に呼応する。時空を超え、生と死の境界すらも超え、「宇宙的孤独共同体」は生まれるだろうか。



未来篇

地球上で最後の生き残りの一人となったケンは、かつてともに暮らした仲間たちを海辺に埋葬し、大きな孤独の中にあった。そこに、地球外から降り立ったユイが迷い込み、二人は言葉が通じない中でも不思議な友情を築いていく....。

未来縄文篇

地球から人類の多くが去った後の時代、ミツキとタイヨーは前時代の遺物を拾い集めながら暮らしていた。海に憧憬を抱くミツキは「汚染された海に近づいてはならない」という言い伝えを破り、隠れて海辺に行くが、言い伝えを厳格に守るタイヨーに見つかってしまう....。

現代篇

幼くして父親を失った山本海知（カイチ）は、自分に何も与えなかった父と、その父親に執着する母・幸（ユキ）に苛立っている。ある日、ユキがカイチの乗る車を運転していると猫を轢いてしまうが、猫はどこも怪我をしていなかった。父が猫を復活させたという考えに至ったカイチは、遺された父の書斎に忍びこみ、本の読書記録を書き換える作業を始める。

監督プロフィール

『コスモ・コルプス』監督：長谷川億名

1985年 那須塩原市生まれ、新潟在住。Yokna Patofa名義で、2006年よりインターネットに映像作品を発表。写真家として、キヤノン写真新世紀2013 佳作(佐内正史選)。2010年代、南北に分断された日本を舞台に描くSF三部作『日本零年』の第一部『イリュミナシオン』と第二部『デュアル・シティ』を監督。2015年、フランクフルトで開催された日本映画祭ニッポンコネクションにて、ニッポンヴィジョンズ審査員特別賞受賞。2017年、恵比寿映像祭にて特集上映。2019年、第69回ベルリン国際映画祭タレンツ部門に監督として招待される。

長谷川監督のメッセージは、
本PDFの末尾に記載しております。



『コスモ・コルプス』監督：
長谷川億名（はせがわよくな）

作品情報

■タイトル:コスモ・コルpus
■監督・脚本:長谷川億名
■配給:セントラルゲーム
■公開日:2026年5月2日(土)~15(金)
■公開劇場:シアター・イメージフォーラム
■公式サイト:<https://yoknahasegawa.com/cosmocorpus>
■公式 X&Instagram:@cosmo_corpus
2025年|134分|16:9|5.1chサラウンド|カラー|DCP
©2026 Yokna Hasegawa

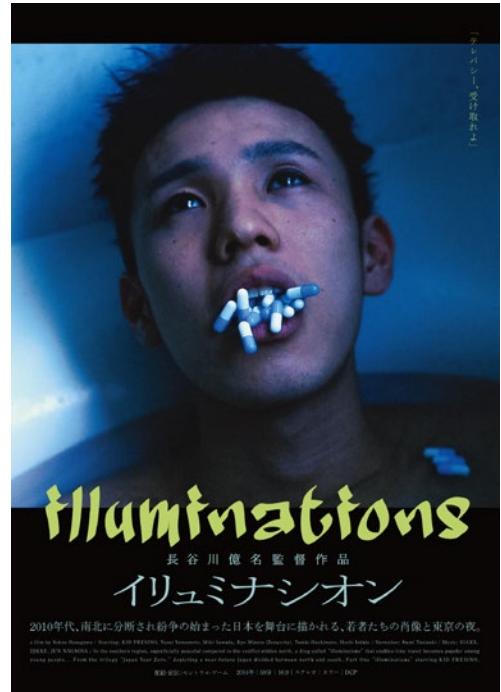
同時期上映作品『イリュミナシオン』(2014)

KID FRESINOが主演をつとめる2014年作の幻のSF映画が、2026年、東京にて再上映。

2019年、南北に分断され紛争の始まった日本を舞台として、かろうじて平和を維持している南部の若者の生活を描く中編作品。

<作品情報>

■タイトル:イリュミナシオン
■主演:KID FRESINO、石田法嗣
■監督:長谷川億名
■配給:セントラルゲーム
■公開日:2026年5月2日(土)~15(金)
■公開劇場:シアター・イメージフォーラム
■公式サイト:<https://yoknahasegawa.com/illuminations>
2014年|59分|16:9|ステレオ|カラー|DCP



映画『イリュミナシオン』(監督:長谷川億名)

お問い合わせ

配給・宣伝:セントラルゲーム
Email:cosmocorpus@gmail.com

ポスタービジュアル・場面写真のダウンロードはこちらよりお願ひいたします。

<https://drive.google.com/drive/folders/1DEOT4M1Aof79DlVi7-1-uO2gzXr-YE1i?usp=sharing>

長谷川監督のメッセージ

この映画のタイトル『コスモ・コルプス』は、「宇宙の中の一つの体」あるいは「宇宙共同体」という意味を込めて選びました。また、昨今「コーパス」はテクノロジー分野でビッグデータを表す用語としても使われており、「記憶」はこの映画の重要なテーマでもあります。

人間は、宇宙の中を回る星のように孤独な存在でありながら、同時に地球の重力、DNAのリレー、生態系、そして見えない超自然的な次元を通じて、他のものと結ばれています。

しかし、私たちが日常的にどれだけこのことを意識できているかは疑問です。

「大昔、私の祖父母の時代には、人々はテレパシーや予感のような力を日常的に使っていた。」

この言葉は、映画の舞台である佐渡島に住む男性から聞いたものです。こうした能力は全く普通のことだったために、意図的に記録されることもなく失われていきました。このお話を通じて、同じように消えていった凄い人間の力が、数多くあったのではないか?と考えるようになりました。

この映画は全編を新潟県・佐渡島で、島の方々にご協力いただき、リサーチを行ながら制作しました。

私たちは大規模な環境変化や、人間の肉体的な範囲を超えて、熟考する時間も与えずに進歩する科学的発展を目の当たりにしています。一方で、佐渡島には貴重な伝統がいまだに保存されており、島という環境が外部世界との間に保つ穏やかな浸透的交流の中で、地球の原始の始まりを垣間見るかのような風景がそこに存在しています。

1万年後を舞台とした「未来篇」、日本が佐渡島だけに縮小されてしまったかのような「未来縄文篇」、そして2011年の東日本大震災を経験しなかった時間軸における2020年代の日本を舞台とした「現代篇」。

それぞれの時代に生きる人々が時空を超えて互いに呼び合う姿を観察することで、遠い、異なった世界とのつながりを認識するきっかけとなるような映画になれば、と思っております。